

- 問1 1543年に種子島へ鉄砲が伝来したことは、その後の戦国時代の戦い方や社会にどのような変化をもたらしましたか。最も適切な説明を選んでください。 (2024年 大阪府公立入試 類似)

1. 鉄砲の製造に高度な技術が必要だったため、戦国大名同士の争いが一時的に停止した

2. 弓矢や刀剣が全く使われなくなり、すべての兵士が鉄砲のみを装備して戦うようになった

3. 騎馬武者による一騎打ちが戦いの主流となり、個人の武勇がより重視されるようになった

4. 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった
- 問2 日本の戦国時代にあたる16世紀、ドイツのマルティン・ルターが、当時のカトリック教会の腐敗を批判したことから始まったキリスト教の改革運動を何といいますか。 (2018年 福島県公立入試 類似)

1. ルネサンス

2. 十字軍

3. 宗教改革

4. 産業革命
- 問3 戦国大名が定めた「分国法」に見られる特徴や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 岡山県公立入試 類似)

1. 江戸幕府が諸大名を統制し、勝手に城を修理することを禁じようとした

2. 鎌倉幕府が御家人たちの土地争いを公平に解決するために制定した

3. 天皇や公家の行動を厳しく制限し、政治に関与させないようにした

4. 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした
- 問4 ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。 (2018年 福島県公立入試 類似)

1. 聖書

2. ローマ教皇の命令

3. 免罪符（贖有状）

4. 教会が定めた儀式
- 問5 室町時代後期から戦国時代にかけて、実力で領地を拡大した戦国大名たちが、幕府の法律に頼らず自らの領国を統治するために独自に定めた法律を何と呼ぶか、正しい名称を選びなさい。 (2026年 大阪府公立入試 類似)

1. 武家諸法度

2. 分国法

3. 公事方御定書

4. 御成敗式目
- 問6 室町時代の後半から戦国時代にかけて、各地で戦国大名が勢力を伸ばした背景として最も適切な説明はどれですか。 (2024年 秋田県公立入試 類似)

1. 幕府が各地の有力な農民に領地を分け与え、新しい支配層として育成したため

2. 朝廷の権威を重んじる「尊王攘夷」の考えが広まり、幕府を打倒する勢力が現れたため

3. 特定の家柄のみが政治を独占する「門閥政治」が行われ、それに反発した新興勢力が台頭したため

4. 幕府の権威が衰え、身分の低い者が実力で上の者をしのぐ「下剋上」という風潮が強まったため
- 問7 戦国大名が定めた法律の内容に多く見られる、「家臣同士が私的な争いを起こした場合、その理由の正当性を問わず、双方とも処罰する」という原則を何と呼びますか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)

1. 目目安箱

2. 喧嘩両成敗

3. 連座（縁座）

4. 奉公と恩賞
- 問8 1543年に日本の種子島へ鉄砲が伝来した時期、ヨーロッパではドイツのルターがローマ教皇や教会の権威を否定する動きを見せていました。このルターから始まった、キリスト教のあり方を問い直す一連の運動を何と呼びますか。 (2019年 大分県公立入試 類似)

1. ルネサンス

2. 宗教改革

3. 十字軍

4. 産業革命
- 問9 戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みずからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。 (2025年 京都府公立入試 類似)

1. 寄親

2. キリシタン大名

3. 守護大名

4. 戦国大名
- 問10 戦国大名の朝倉氏が定めた「城郭の構築に制限を設ける規定」や、伊達氏が定めた「年貢を納めない農民への処罰に関する規定」など、当時の大名が独自に定めた法典が持っていた共通の目的として、最も適切なものはどれか。 (2024年 奈良県公立入試 類似)

1. 室町幕府の将軍から授かった権限を、領民に広く知らしめること

2. 土地をすべて公有とし、農民に平等に配分して税収を安定させること

3. すべての裁判を天皇や公家が行うという原則を確立すること

4. 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること
- 問11 16世紀半ばに種子島へ伝来した鉄砲は、その後の日本の戦い方を大きく変えることとなりました。鉄砲の普及が戦国時代の社会や軍事面に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)

1. 騎馬武者の一騎打ちが重視されるようになり、個人の武勇がより重んじられた

2. 武器の威力が向上したため、平地での戦闘を避けて山城にこもる戦術が一般的になった

3. 鉄砲の製造が困難であったため、京都周辺の限られた大名だけが勢力を伸ばした

4. 足軽などの歩兵による集団戦法が主流となり、戦いの規模が拡大した
- 問12 15世紀後半の応仁の乱以降、室町幕府の権威が低下するなかで、各地の戦国大名が自らの領国内を独自に統治・管理するために制定した法律を何というか、正しい名称を選びなさい。 (2023年 福井県公立入試 類似)

1. 公事方御定書

2. 分国法

3. 御成敗式目

4. 武家諸法度
- 問13 鉄砲の伝来がその後の日本の戦い方や社会に与えた影響として、最も適切な説明を選びなさい。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)

1. 外国との交易が危険視されたため、すぐに鉄砲の使用や製造が全面的に禁止された。

2. 武士個人の技術がより重視されるようになり、刀や弓矢による一騎打ちが増加した。

3. 鉄砲の製造が困難であったため、一部の特権階級のみが儀礼用として保持した。

4. 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。
- 問14 戦国時代、各地の戦国大名は自らの実力で領国を統治するために独自の法令を制定しました。これらの法令において、「家臣同士が勝手に婚姻を結ぶことを禁止する」や「領国内での勝手な築城を禁止する」といった項目が盛り込まれた主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)

1. 朝廷から与えられた守護としての権限を、隣接する他の領国へ拡大するため

2. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目の内容を、全国の農民に分かりやすく広めるため

3. 領国内の家臣や国衆の結びつきを制限し、大名による領国支配を強化するため

4. 江戸幕府が定めた武家諸法度を遵守し、将軍への忠誠心を示すため